

# 新評論

2017

3・4

No.273

発行所 © 新評論 2017年  
〒169-0051 新宿区西早稲田3-16-28  
TEL03-3202-7391 FAX03-3202-5832  
http://www.shinhyoron.co.jp  
e-mail: shrn@shinhyoron.co.jp  
振替 00160-1-113487 価格税抜



1960年代、工場の煤煙に覆われた戸畑区で人々の暮らしを記録する若き日の著者。

「鉄の町」で1人の公務員が女性たちとともに立ち上がる。反骨の記録作家の原点であり、戦後公害闘争史の発端をなす運動の全貌。

## 《写真記録》これが公害だ

北九州市戸畑区「青空がほしい」運動の軌跡

林えいだい

◆ジャンル:公害闘争/北九州市の戦後史/環境問題

著者の記録作家としての原点は公害にある。経済成長が何よりも優先された時代、気がつくとも身の回りの自然は汚染され人々の生活は破壊されていた。「人はいつから命よりもカネ儲けが大事になったのか」。その答えを探るためにカメラを手に、この国の不条理を記録してきた。林えいだいさんが生まれ育った福岡県香春町は、炭坑節にも唄われた「石炭とセメントの町」である。大学を中退し、六年半勤務した香春町教育委員会を辞めて「鉄の町」戸畑市（現北九州市戸畑区）の社会教育課に勤務したのは一九六二年、えいだいさんが二十九歳の時だった。転居からほどなくして、幼い二人の娘に喘息の症状が現れた。「大変なところに引越した」と思ったそうだ。

当時の北九州工業地帯は「七色の煙」と形容され、工場からの降灰で洗濯物が外に干せない状況だった。ところが聞こえてくるのは「町の繁栄は企業のおかげ」という声。煙を吐き続ける工場を前に、誰も不満を口にできない。戸畑市の職員だったえいだいさんの、公務員の枠に収まりきれない反骨魂に火がついた。「公害のしわ寄せが真っ先に及ぶのは、家庭や育児をあずかる女性たちだ」。地元の

女性たちと始めた運動は、やがて「青空がほしい」という市民キャンペーンとなり、全国の公害克服運動へと繋がった。

公害は人間の生命や尊厳を軽視し、経済発展を優先する国家と企業のもたれあいによって生まれる。今の日本で、その体質がなくなつたと言えるだろうか。東日本大震災による福島第一原発事故を経験した現在、社会のための技術が利益追求の道具となり、人の命や健康を犠牲にするような使われ方は許されないことを私たちは身をもって学んだ。

「人間の英知は科学を創造し、発展させた。しかし、それで人間はしあわせになつたであろうか。えいだいさんは本書の中で、こう指摘している。この言葉には今を生きる人々への厳しい問いかけが込められている。（本書「復刻によせて」より／西嶋真司 映画「抗い」記録作家・林えいだい」監督）

ISBN978-4-7948-1064-9 3月下旬刊  
A5並製 予一九二頁 予二〇〇〇円

\*本書は一九六八年刊「林えいだい写真集これが公害だ——子どもに残す遺産はなに」（北九州青年会議所発行）の復刻版です。付録として「青空がほしい」運動の現代的意義を示す解説や資料を付加しました。

著者 1933年福岡県香春町生まれ。記録作家。ありらん文庫主宰。戦争や朝鮮人強制連行などをめぐる埋もれた史実を掘り起こしてきた。『実録証言 大刀洗さくら弾機事件——朝鮮人特攻隊員処刑の闇』など著書多数。半生を描いたドキュメンタリー映画『抗い』が全国公開中。





〈アメリカ的なもの〉の表象の起源とイメージの大逆転劇に  
米国の隠蔽された暗部を読みとる、刺激に満ちた文化論!

# スーパーマンの誕生

KKK・自警主義・優生学

遠藤 徹

◆ジャンル:アメリカ文化/表象文化論/カルスタ/社会学

左:「映画の父」D.W.グリフィス監督「國民の創生」ポスター。作中の英雄のイメージがKKK再興にインスピレーションを与えたと言われる/右:シーゲルとシャスターのコミックを原作とする1978年の映画ではC.リーヴが主役を演じた  
(©visiticeland@hotmail.com / Helgi Hall)

オバマもトランプも自分をなぞらえたほどアメリカ的なものゝ代表するスーパーマン。しかしその起源をさかのぼっていくと、隠蔽された三つの忌まわしい源泉に突き当たる。

一つめは「KKK」。隠れた場所であいコンが刻まれた衣裳に着替え、ケープをなびかせて登場する正体不明の男というスタイルは、スーパーマンのものであると同時にKKKのものだ。

二つめは「自警主義」。それぞれの共同体にとつての正義を遂行するため、国家の法律を無視して「正義のための暴力」をふるう自警主義こそ、スーパーマンの立場であるとともに、アメリカのフロンティアの歴史を推進したものであった。

三つめは「優生主義」。「科学」の力で理想的な超人を造り出そうとしたアメリカ生まれの優生主義は、ヒトラーにも影響を与えた。

こうした暗い起源をもつスーパーマンは、しかし、KKKから意匠を借りながらその内実を逆転し、自警から出て自警主義の悪漢と戦い、優生学から出ながら優生学の極端な推進者であったナチスと戦うヒーローとして、生まれ変わったのか?なぜそんな大逆転が可能だったのか?

それを解くカギは「適合性」という考え方にある。

適合性という概念は、優生学運動では、遺伝要因による環境への適合/不適合の不変の尺度とされた。つまり純血な白人男性こそ人間の進化に最も適合した存在だ、というわけである。

このエリート主義的な文脈に異を唱えた雑誌があった。その雑誌「フィジカル・カルチャー」は、労働者層を読者層として想定し、遺伝的要因とは関係なく、トレーニングと食事制限——つまりフィットネス——を通して身体を改造し得ることで、誰でも社会に「適合(フィット)」できる存在になれる、と主張した。そして『スーパーマン』の二人の原作者ジェリー・シーゲルとジョー・シャスターはこの『フィジカル・カルチャー』の寄稿者でもあったのである。

世界を支配しようとはせず、世界に適合しようとするヒーロー、スーパーマン。その誕生の過程には、アメリカの隠蔽された暗部とそれをねじり返す力が刻まれている。

(えんどう・とおる)

ISBN 978-4-7948-1066-3

4月上旬刊

四六並製 二二四頁 予二〇〇〇円

著者 同志社大学グローバル地域文化学部教授。「モンスター」「プラスチック」といったユニークな切り口から英米文学・文化研究を行なっている。また近年は作家としても知られ、「姉飼」で日本ホラー小説大賞を受賞、「麝香猫」で川端康成文学賞候補に選出された。





祭典「ハイン」に登場する精霊の一つ、コシュメンク。

その造形で世界中の人々を魅了する南米先住民のユニークな祭礼文化を詳説した初めての和書! 祭の息吹を伝える貴重な写真約50点収録

# ハイン 地の果ての祭典

南米フエゴ諸島先住民セルクナムの生と死  
(仮題)

アン・チャップマン／大川豪司 訳

◆ジャンル: 人類学／民族学／南米先住民の文化

尖った円錐形の仮面、裸身を覆う大胆な模様、不思議なポーズ……。人類学者M・グシンデが一九二三年に撮影した一連の写真を初めて見る人は、古いSF映画の一場面か、またはボディペインティング・アートかと思うかもしれない。実はこれは、セルクナムという部族が脈々と続けてきた祭典「ハイン」の扮装のひとつなのだ。

セルクナム族と呼ばれる人々は、南米大陸の南端に点在するフエゴ諸島に住んでいた。そこは人間が定住した最も南の土地、「地の果て」だった。この地域には四つの異なる部族が暮らしていたが、セルクナムはそのなかでも最大のグループだった。主島のフエゴ島とそこに住む人々の存在は、一五二〇年、マゼランの世界周航によって初めて西洋社会に知られた。以後多くの者がこの地を訪れる。「海賊」ドレーク、キャプテン・クック、ダーウィンを乗せたビーグル号、貿易船やアザラシ猟の船、金鉱探索者、キリスト教の伝道師たち、牧場経営者たち……。島民と

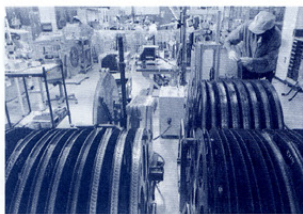
の間に様々な軋轢が生まれ、やがて一九世紀末に至ってフエゴ島は生き地獄と化す。公然と大虐殺が行われ、伝道所に強制収容された人たちの間に伝染病が蔓延し、そこから生きて出た者はわずかだった。フエゴ島民は短期間のうちに絶滅への道を辿り、生粋のセルクナムは一九九九年に絶えた。

多くの西洋人の目に、フエゴ島民の生活は「野蛮」で「惨め」で、自分たちの「文化的生活」とはかけ離れたものと映った。酷寒の地で裸同然で暮らす人々のなかには、拉致され、見せ物にされた者も多くいた。だが、彼らは世界のどこにも似たものの無い独自の文化をもっていた。部外者にはほとんど明かされることなかった祭典「ハイン」はその白眉だ。本書は、この驚くべき祭典の姿を、残された記録や往時を知る数少ない人たちの証言から丹念に描き出し、「消えた」部族の姿を生きたと伝えていく。(編集部)

A5上製 予二八〇頁 予三〇〇〇円  
ISBN978-4-7948-1067-0 4月刊

著者 Anne CHAPMAN (1922-98) アメリカの人類学者。生き残っていたわずかなセルクナムと親交をむすび、生涯を通じてフエゴ島民の社会・文化を研究した。訳者 大川豪司 1961年生まれ。国際基督教大学卒。現在、英語の学習塾講師。





長野県諏訪市から進出した精密プレス加工のミズ工業の作業現場。

「現場」の息吹を伝える経済学者の原点、30年越しの訪問調査の集大成! 行政関係者・企業人必携、「北上モデル」のすべて。

# 「地方創生」時代の 中小都市の挑戦

産業集積の先駆モデル・岩手県北上市の現場から

関 満博

◆ジャンル: 地域産業 / 「地方創生」論

地方圏の人口減少、高齢化が急角度で進んでいる。特に地方の中小都市では若者人口の流出が著しい。そのような中で、必死の工業化を推進してきたのが岩手県北上市である。地方圏の中小都市の中ではほとんど唯一、人口を維持し、産業活動も活発なことで注目されている。

この地域は、藩政時代は南部藩と伊達藩の境界に位置し、産業発展の契機をつかむことができなかった。一九五四年の町村合併によって市としてスタートしたが、数年は財政再建団体として苦難が続いた。だがその間も人びとは懸命に「工業立市」に向けた努力を重ねた。巨大工業団地の開発、語り草になるほどの果敢な企業誘致を重ね、ついに北東北一の産業集積を形成することに成功。現在、工業団地は一〇カ所、約六九〇ヘクタールにも及び、進出企業は二七〇社以上を数える。優れた地元中小企業も育ち、工業集積の厚みも増している。

ただし、近年、同市を取り巻く状況も大きく変わってきた。看板の半導体産業は世界的な再編の中で構造転換を迫られている。次の時代を期待され、集積が始

まった自動車産業は、取り組みが思うようには進んでいない。他方で、交通条件の改善もあって北上の拠点性が注目され、物流関係企業の集積が進んでいる。また、発展する市街地と、人口減少・高齢化の進む郊外の中山間地域との市内格差という問題も生じている。

他に類を見ない発展を遂げてきた北上市の次の課題は、産業集積の内面の高度化を果たし、内発的な展開力をつけることである。さらに、北東北の工業ネットワークの形成、地元の人びとの暮らしを豊かにしていくための地域産業社会の形成も必須である。その意味で、北上は「地域創生」時代の先駆モデルでもあり、私たちはその成果だけでなく課題からも学ぶことができるだろう。

(せき・みつひろ)

ISBN978-4-7948-1063-2 4月上旬刊

A5上製 予四一六頁 予六〇〇〇円

「農」と「食」の農商工連携  
関満博

好評刊  
地域産業の「現場」を行く

「期待と希望と勇気の30話」  
[既刊第1〜9巻] ①二二〇〇円 ②③二四〇〇円

著者 1948年生まれ。明星大学経済学部教授、一橋大学名誉教授。博士(経済学)。代表作『東日本大震災と地域産業復興 I〜V』(シリーズ完結)のほか、『地域産業の「現場」を行く 1〜9集』、『6次産業化と中山間地域』など編著書多数。



# 林えいだい『実録証言 大刀洗さくら弾機事件——朝鮮人特攻隊員処刑の闇』

## 戦争と民族差別の「闇」

■評者 武 秀樹（書評家）

太平洋戦争の末期、日本陸軍は、直径1・6メートル、重さ2・9トンの大型爆弾を開発し、これを搭載するための爆撃機「さくら弾機」を完成させた。陸軍は異様な姿をした、この特攻専用機を劣勢挽回のための「最後の切り札」とし、福岡県の大刀洗飛行場<sup>たちあらい</sup>に配備した。

1945年5月23日早朝、この本で取り上げた事件が起きる。大刀洗北飛行場で、2日後に出撃を控えたさくら弾機が炎上したのだ。

憲兵隊はこれを、放火と断定。在日朝鮮人で、飛行第62戦隊所属の通信士・山本辰雄

（創氏改名による日本名）伍長を逮捕した。山本伍長は「過失」を主張したが、軍法会議はこれを認めず、8月8日、死刑判決を下し、翌日には刑が執行された。

著者はこの事件に長年こだわって、取材を続けてきた。本書は、取材に応じた関係者の生の声を「できるだけ正確に」記録した証言集である。

証言者は、山本伍長と同じ第62戦隊所属の航法士や操縦士、事件後に憲兵隊の取り調べを受けた農会の女性、陸軍専用旅館の息子、大刀洗北飛行場の建設工事に駆り出された朝鮮人坑員、特攻隊員と交

『神奈川新聞』2017年2月12日

流のあった女学生らだ。

これらの証言から明らかになってきたのは、特攻機に乗る予定の搭乗員自身が参謀本部の立てた特攻作戦に疑問を抱いていたこと、憲兵隊による拷問と自白強要の疑念、犯人を捜す上で朝鮮人に対する民族差別と偏見があったという疑いだ。

これらの複数の要因によつて、山本伍長は無理やり放火犯に仕立てられたのではないか？ 決定的な証拠

『東京新聞』他各紙紹介  
ISBN978-4-7948-1052-6



はないにしても、「山本伍長は冤罪で、真犯人が別にいる」という疑念は、「いまや確信に近くなっている」と著者は記す。当時の事情を知る関係者も少なくなっていく中での取材は困難を極めたであろう。また、事件の性格から考えて、関係者から証言を引き出すことも難しかっただろう。

真相を追って十余年、戦争と民族差別の闇を暴こうとした、記録作家による執念の一冊だ。

四六並製 二九六頁 二五〇〇円



## 本を売る

## 定番

数年振りの新宿本店勤務。入社して20年以上経つが、この店は時代に合わせて変化した面もあれば、頑固にそのままだという面も多々ある。一方、新宿の街の風景は大きな変化し、昭和の時代からあった多くの店舗が姿を消していた。道を歩き交う人々の国籍も多様化し、裏通りを歩いても昔の面影を探すのが難しくなっていた。

専門書の分野には、俗に「定番書」や「基本図書」「必備図書」と呼ばれ、時代の変化とあまり関わりなく売れ続ける本が存在する。その分野を志す学生が必ず読むテキストや古典的名著などがそうだ。入学シーズンには平積みが当たり前。店頭在庫を切れさせるなど言語道断。お客様に聞かれて即答できなければ書店員として恥とまで言われる本たちである。しかし近年、これらの定番書がどんどん売れなくなってきた。特に郊外店舗でこれが顕著で、かき入れ時であるはずの春・秋にも売れない以前、ある郊外店舗に異動してすぐ、数点の基本図書が無いのに気づいて仕入れたが、全く売れなく

てショックを受けた。

ネットで探せばその本の要点がわかるようになってしまった現在、もはやテレビ等で取り上げられた本しか売れないのか。それすら動かしとしては単発で、重版されたころには売れなくなってしまうこともままある。本を売る立場として内心この変化に落胆し、「本を売る」ということと毎日格闘しているような状況だった。

そして戻ってきた新宿本店。専門書売場に自分がいたころの定番書が積んであるのを見て、逆の驚きを感じた。学生らしき方や中高年の方が立ち読みしたり、買っていく風景があった。「変わらないなあ」と安堵する一方で、客層と売れ方の店舗差・地域差を痛感し、「本を売る」ことの難しさを改めて感じもした。

需要偏重では、リアル書店店頭での既刊本の出番は減ってしまう。かといって、昔からの定番書を買りたいと考え供給原理だけで攻めれば、売上確保が難しい。変わらぬ頑固な面を保ちつつ、変化に合わせた展開も心がけねばならない。まずは自分の頭を柔軟にすべく奮闘開始である。

紀伊國屋書店新宿本店 松本麻子

本誌表示価格はすべて税抜です。

## 書評日誌(1・1~2・11)

## 書評 紹介 関連記事

- 2016WINTER ㊦BOOKMARK『ギヴァー 記憶を注ぐ者』
- 1・1 ㊦週刊女性『カモシカ脚の子どもたち』(著者談)
- 1/1・15合併号 ㊦BRUTUS『放射能を食えというならそんな社会はいらない、ゼロベクレル派宣言』(栗原康)
- 1・14 ㊦ウィメンズアクションネットワーク(WAN)女の本屋『Sheという生き方』(著者寄稿)
- 1・15 ㊦北海道新聞『実録証言 大刀洗さくら弾機事件』(著者談)
- 1・20 埼玉新聞『「ようちえん」ははじめました!』(著者談)  
㊦ラテンアメリカ・レポート『新版 現代ブラジル事典』近田亮平(編集委員)
- 1・21 ㊦東京新聞『実録証言 大刀洗さくら弾機事件』(著者談)
- 1・22 ㊦しんぶん赤旗『実録証言 大刀洗さくら弾機事件』(著者談)

- 1・24 ㊦毎日新聞(夕刊)『孤独死の看取り』(上野千鶴子)
- 1・25 ㊦ふえみん『実録証言 大刀洗さくら弾機事件』(『抗い』監督・西嶋真司氏談)
- 1・29 ㊦西日本新聞『実録証言 大刀洗さくら弾機事件』
- 1月号 ㊦地方自治職員研修『Sheという生き方』
- 2017年冬号 ㊦季刊地域『東川町ものがたり』(佐久間淳)
- 2・4 ㊦福島民報『「ようちえん」ははじめました!』(宮本まき子)
- 2・5 ㊦北日本新聞『「ようちえん」ははじめました!』(宮本まき子)
- 2・11 ㊦週刊東洋経済『世界を治療する』

## 2月の増刷

## 虚構の「近代」

【科学人類学は警告する】 5刷  
ブルーノ・ラウール/川村久美子 訳・解題

3200円



## 本を読む

## 実録証言 大刀洗きくら弾機事件

一人の朝鮮人特攻隊員が、特攻機に放火した罪で処刑された、しかもそれが冤罪かもしれないという埋もれた事実を、徹底した調査と丹念で幅広い聴き取りにより暴いており、戦争の不条理を突きつけられました。著者の取材・執筆スタイルにいつもながら感銘をうけつつ、氏の半生を描いた映画『抗い』を絶対に観に行こうと思いました。(柏市 加藤義明 66歳)

## 「衣食足りて礼節を知る」は誤りか

かつて日本人はマナー・モラルの劣悪さを世界中から嘲笑されていたが、向上への転機となったのは、昭和30～40年代の経済成長により生活環境が改善されたことにあるという。私もその時代を10代として生きた。本書は一種の生活風物詩であると同時に、日本人の行動様式に焦点を当てた文明・文化論でもあり、読み進むにつれて興味が深まる。特に第3章から第4章に至る展開は圧巻だ。(神戸

市 まちづくりプランナー 山本敬二)

## 版画でたどる万葉さんぽ

版画による歌の紹介がとても素敵で、奈良を歩いているような気分になりました。今春また奈良を訪れる予定で、その折には携えていこうと思います。(筑西市 公務員 鈴木とし子 58歳)

## 算数・数学はアートだ!

今の若い人は「教育」と「訓練」を同じ意味で使っているように見受けられるが、両者は違う。現代の学校教育における算数・数学は、教育ではなく訓練になってしまっているということが、本書を読むとよくわかる。(川崎市 渡辺信 71歳)

## 好評刊

## 「衣食足りて礼節を知る」は誤りか

【戦後のマナー・モラルから考える】  
大倉幸宏 二〇〇〇円

## 版画でたどる万葉さんぽ

【恋と祈りの風景】 宇治敏彰 一八〇〇円

## 算数・数学はアートだ!

【ワクワクする問題を子どもたちに】  
P・ロックハート／吉田新一郎 訳 一六〇〇円

## 編集部から

一九六〇年代初頭、八幡製鉄が立地する北九州の大気は濃々たる煤煙に覆われ、水辺は生きものが棲めないほど汚れていました。それがいまや川に天然の鮎が泳ぐほど環境が浄化され、「エコタウン」の世界的モデルともなっています。この劇的な再生には、地元女性による公害防止運動が大きくかかわっています。そしてその初動に大きな役割を果たしたのが、戸畑市(現・北九州市戸畑区)の社会教育主事として婦人学級を担当していた記録作家・林えいだい氏です。新刊『写真記録』これが公害だ、氏が当時撮影した写真を中心にした運動の軌跡を綴ったものです。先の原発事故によつて「公害」が過去のものではないと痛感した私たちに、運動への多大な勇氣と示唆をあたえてくれるはずです。

## 営業部から

▼来る3月、大好評「ちた一つを変えだけの著者ダン・ロス・スタン氏アメリカ正問研究所が来日、「質問つくり」を指南するイベントが開催されます! 共催・京都産業大学+アイディア創発コミュニティ推進機構」▼ときとところ・①3/12(日)14:17時 ワークショップ@東京都杉並区立神明中学校体育館②3/13(月)10:16時 トレーニングプログラム@お茶の水女子大学共通講義棟1号館304教室③3/15(水)17:20時 ワークショップ@京産大むすびわざ館3-A教室④3/16(木)10:16時 トレーニングプログラム@会場同右▼同時通訳付▼参加費用・ワークショップ1000円、トレーニングプログラム7500円▼お問合せ・お申込・ハテナン(<http://hate-nanathonenablog.jp>)まで

## SBC(新評論ブッククラブ)のご案内

会員は送料無料! 各種特典あり! お申し込みを!

当クラブ(一九九九年発足)は入会金・年会費なしで、会員の方々に弊社の出版活動内容を紹介する月刊P.R誌「新評論」を定期的に「送付しております。入会登録後、弊社商品に添付された読者アンケートにハガキを累計5枚お送りいただくことにより、全商品の中からご希望の本を一冊無料進呈する特典もございます。ご入会希望の方は小社HPフォームからお送りいただくかメールまたはハガキにて、お名前、郵便番号、ご住所、電話番号を明記のうえ、弊社宛にお申し込みください。折り返し、SBC発行の「入会確認証」をお送りいたします。



## 本を読む

## 実録証言 大刀洗さくら弾機事件

一人の朝鮮人特攻隊員が、特攻機に放火した罪で処刑された、しかもそれが冤罪かもしれないという埋もれた事実を、徹底した調査と丹念で幅広い聴き取りにより暴いており、戦争の不条理を突きつけられました。著者の取材・執筆スタイルにいつもながら感銘をうけつつ、氏の半生を描いた映画『抗い』を絶対に観に行こうと思いました。(柏市 加藤義明 66歳)

## 「衣食足りて礼節を知る」は誤りか

かつて日本人はマナー・モラルの劣悪さを世界中から嘲笑されていたが、向上への転機となったのは、昭和30・40年代の経済成長により生活環境が改善されたことにあるという。私もその時代を10代として生きた。本書は一種の生活

風物詩であると同時に、日本人の行動様式に焦点を当てた文明・文化論でもあり、読み進むにつれて興味が深まる。特に第3章から第4章に至る展開は圧巻だ。(神戸

市 まちづくりプランナー 山本敬二)

## 版画でたどる万葉さんぽ

版画による歌の紹介がとても素敵で、奈良を歩いているような気分になりました。今春また奈良を訪れる予定で、その折には携えていこうと思います。(筑西市 公務員 鈴木とし子 58歳)

## 算数・数学はアートだ！

今の若い人は「教育」と「訓練」を同じ意味で使っているように見受けられるが、両者は違う。現代の学校教育における算数・数学は、教育ではなく訓練になってしまっているということが、本書を読むとよくわかる。(川崎市 渡辺 信 71歳)

## 好評刊

## 「衣食足りて礼節を知る」は誤りか

〔戦後のマナー・モラルから考える〕  
大倉幸宏 二〇〇〇円

## 版画でたどる万葉さんぽ

〔恋と折りの風景〕 宇治敏彰 一八〇〇円

## 算数・数学はアートだ！

〔クワクワする問題を子どもたちに〕  
P・ロックハート／吉田新一郎 訳 一七〇〇円

## 編集部から

一九六〇年代初頭、八幡製鉄が立地する北九州の大気は濃々たる煤煙に覆われ、水辺は生きものが棲めないほど汚れていました。それがいまや川に天然の鮎が泳ぐほど環境が浄化され「エコタウン」の世界的モデルともなっています。この劇的な再生には、地元女性による公害防止運動が大きくかかわっています。そしてその初動に大きな役割を果たしたのが、戸畑市(現・北九州市戸畑区)の社会教育主事として婦人学級を担当していた記録作家・林えいだい氏です。新刊『写真記録』これが公害だ!は、氏が当時撮影した写真を中心にした運動の軌跡を綴ったものです。先の原発事故によって「公害」が過去のものではないと痛感した私たちに、運動への多大な勇氣と示唆をあたえてくれるはずです。

## 営業部から

▼来る3月、大好評「ちた一つを変えただけ」の著者ダン・ロズスティン氏アメリカ正問研究所が来日、「質問づくり」を指南するイベントが開催されます! (共催・京都産業大学+アイデア創発ユニティ推進機構) ▼ときとところ・①3/12(日) 14:17時 ワークショップ@東京都杉並区立神明中学校体育館②3/13(月) 10:16時 トレーニングプログラム@お茶の水女子大学共通講義棟1号館304教室③3/15(水) 17:20時 ワークショップ@京産大むすびわざ館3-A教室④3/16(木) 10:16時 トレーニングプログラム@会場同右▼同時通訳付▼参加費用・ワークショップ1000円、トレーニングプログラム7500円▼お問合せ・お申込・ハテナン(<http://hate-nanathenablog.jp>) まで

## SBC(新評論ブッククラブ)のご案内

会員は送料無料! 各種特典あり! お申し込みを!

当クラブ(一九九九年発足)は入会金・年会費なしで、会員の方々に弊社の出版活動内容を紹介する月刊PR誌「新評論」を定期的に送付してあげます。入会登録後、弊社商品に添付された読者アンケートハガキを累計5枚お送りいただくことにより、全商品の中からご希望の本を一冊無料進呈する特典もございます。ご入会希望の方は小社HPフォームからお送りいただくか、メールまたはハガキにて、お名前、郵便番号、ご住所、電話番号を明記のうえ、弊社宛にお申し込みください。折り返し、SBC発行の「入会確認証」をお送りいたします。